経営関連学会協議会主催 公開講演会

テーマ「イノベーションの社会実装:プラチナ社会の実現を目指して
～コロナを奇貨として未来へ向かおう～」

日 時：2021 年 3 月 5 日(土) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会 場：専修大学 神田キャンパス 1 号館 301 教室、Zoom オンライン併用

講 師：小宮山 宏氏　三菱総合研究所理事長、プラチナ構想ネットワーク会長
東京大学 第 28 代総長

司 会：植木 英雄氏　経営関連学会協議会副理事長

開会の辞：内野 朗氏 経営関連学会協議会理事長

公開講演会の開催報告（記録）はこちら

経営関連学会協議会主催 公開講演会

テーマ「イノベーションの社会実装:プラチナ社会の実現を目指して
～コロナを奇貨として未来へ向かおう～」

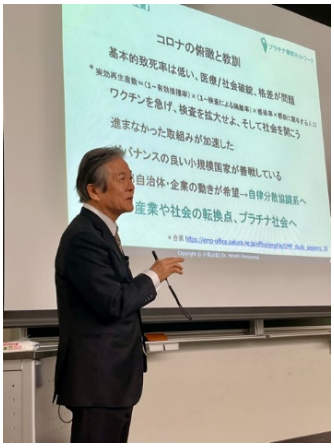
日 時：2021 年 3 月 5 日(土) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会 場：専修大学 神田キャンパス 1 号館 301 教室、Zoom オンライン併用

講 師：小宮山 宏氏 三菱総合研究所理事長、プラチナ構想ネットワーク会長
東京大学 第 28 代総長

司 会：植木 英雄氏 経営関連学会協議会副理事長

開会の辞：内野 朗氏 経営関連学会協議会理事長



「イノベーションの社会実装：プラチナ社会の実現を目指して
～コロナを奇貨として未来へ向かおう～」（講演要旨）

小宮山　宏　プラチナ構想ネットワーク会長、三菱総合研究所理事長

日本は少子高齢化やエネルギー問題など、課題を先進的に抱える課題先進国である。我々はこれらの課題と苦闘しているが、日本の課題解決は我々にとって必要なだけでなく世界の課題解決に貢献することでもある。

人類の目指すべきビジョンは、地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会と考えている。私はこれをプラチナ社会と定義し、その実現に向けて 10 年以上取り組んできた。

コロナ禍は、「プラチナ社会実現へ加速せよ」というメッセージのように思える。ポストコロナ社会とは、プラチナ社会ではないだろうか。

例えば、よく統治された小国や地域は、賢明にコロナに対応し、混乱を避けてきた。ヨーロッパのルクセンブルグやアイスランド、アジアのシンガポール、中東のカタール、アラブ首長国連邦など、これらの国々は感染者が多いものの、死者が少ないという点で成功している。日本でも和歌山県など、いくつかの地域が独自の取組みにより成功した。

つまり、これらの小規模地域では、感染状況や地域の医療システムの能力に応じて、適切に対応することができた。このことは、自律的な分散型協調システムが実現されれば、民主主義とコロナ対応が両立することを示している。日本は明治維新以来、中央集権で成功してきたが、今後は自律分散協調社会を前提とするプラチナ社会に移行すべきだろう。

コロナ禍では、在宅勤務、副業の自由化、オンライン会議、オンライン医療など、これまで進まなかった取組みが大きく進歩した。ラッシュアワーが不条理であることも明確になった。

社会の本質は人間同士の交流であり、リアルな交流はかけがえのないものである。一方、生活の場所や働き方の自由度は大幅に増し、生き方の自由度が高まった。我々は自己実現を自由に目指すことができるのだ。リアルとバーチャルのハイブリッド型システムにより、社会をより良くすることができるだろう。

しかし、格差については真剣に考慮する必要がある。コロナ禍により明らかとなった重要な事実は、社会的弱者が非常に苦しんでいるということである。格差は、コロナ禍以前から現代社会の直面する最大の課題であったが、コロナ禍はこの事実を強調した。

格差発生のメカニズムと顕在化の形態は国により異なるが、いずれにせよ、格差を助長するようなビジネスは淘汰されるだろう。そして、格差を真摯に受け止め、対処するビジネスが今後評価されるだろう。

コロナ禍は遠からず収まる。しかし、気候変動など地球の問題はますます悪化している。日本の美しい四季、春夏秋冬が壊れてしまうのではないか、不安に駆られる。台風の巨大化にも恐怖を感じる。コロナは一過性だが、地球の持続は永続的課題である。

地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能とする社会、すなわちプラチナ社会が、ポストコロナに目指すべき社会であると確信している。